

法政大学地理学会 2015 年度第 1 回例会報告
「シンポジウム「地理学と『テツ』, 地理学者と『テツ』」

7月25日(土)、法政大学地理学会2015年度第1回例会(シンポジウム)が無事開催されました。テーマ「地理学と『テツ』, 地理学者と『テツ』」がテーマだけに、会場は終始、涙あり、笑いあり、そしてまじめな討論ありで、14時から始まったシンポジウムはあっという間に18時の終了時間に達してしまったというのが正直な感想です。

基調講演は自他ともに認める「テツ」の須田昌弥先生(青山学院大学教授)と西野寿章先生(高崎経済大学教授)に語ってもらいました。2人とも、自らの生い立ちから、いかにテツに染まっていったかを赤裸々に告白していただくだけでなく、そうしたテツがどのように研究と深く結びついていったかを、会場にいた人たちに教えてくれました。

後半は基調講演のお二人に加えて、パネリストとして中川秀一先生(明治大学教授)、野中健一先生(立教大学教授)にも加わっていただき、さらに議論を深めていきました。特に野中先生はジオラマのプロフェッショナルであり、会場に自ら制作したジオラマを待ちこみ、参加者の皆さんを和ませていただいただけでなく、中川先生と合わせて、テツのすばらしさ、その一方で、テツではあるけど、研究テーマとはしなかった理由等を語っていただきました。

シンポジウムの司会を担当した伊藤としましては、このシンポジウムの真の狙い(テツを一カ所に集めて、一気にまとめて捨てる)を果たすべく、いろいろと意地悪な質問も用意し、実際に講演者、パネリストにぶつけてみたのですが、なかなかテツの牙城は堅かったです。そうした中で須田先生が「黒い須田、白い須田」の比喻を使って、テツであることと研究者であることの整合性を見事に説明してくれたことがシンポジウム最大の収穫ではなかったでしょうか。自らの情熱的な関心を、いかに冷静な頭脳で受け止めて研究に収れんさせていくか。とても素敵な言葉と説明をいただきました。

当日、会場には50名弱の会員、非会員の方が集まり、熱心に耳を傾け、また、司会の必要がないくらい、次々と質問が出され、とても活発な時間を過ごさせていただきました。シンポジウム終了後の懇親会も20名前後の方に参加していただき、夜遅くまで楽しい時間が続いていきました。

また、「こんなテーマでシンポジウムをしてみたい」という要望がありましたら、集会委員会までお知らせください。会員のためになり、会員が楽しむことのできるテーマを積極的に取り上げていきたいと思っています。以上、簡単な例会報告でした。(伊藤達也)

